



馬の学校

馬の学校通信

2020.9 vol.79

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 愛知県名古屋市天白区植田本町 3-1105-301 TEL/FAX : 052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : <http://www.horseschool.org>



ドイツでの研修



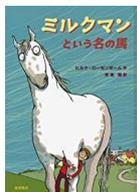
1997年4月、イギリスのフォーチュンセンターでの3か月の研修を終えたあと、ドイツのドルマーゲンにあるラファエルスハウス青少年支援センター（Raphaelshaus Jugendhilfezentrum）で1か月の研修を受けることになりました。青少年支援センターは、虐待を受けるなどして支援が必要な子どもたちを対象とした施設で、敷地内に子どもたちが生活する場と学校等があります。その一角に馬小屋と馬場、放牧場があり、センターで暮らす一部の子どもたちが馬に関わるプログラムに参加していました。年齢や目標等を考慮したグループでの活動は、授業時間内で行われることも多く、話し合い、馬の準備、馬の活動、後片付け、振り返り、が含まれています。屋内馬場でレッスンのことを行うのか、あるいは地内をお散歩するのか、誰がどの馬に乗るのか等を話し合い、終了後にその日の活動や自分の振る舞いを振り返ることを大切にしている、馬の活動を通じた教育という位置づけです。もちろんすべてはドイツ語で行われるため、基本的に私は見学させてもらい、あとでスタッフにどんな話をしていたのか等を聞いていました。子どもたちとは、私の片言のドイツ語と、子どもたちの片言の英語で、わずかながらコミュニケーションを取っていました。また、ドイツ滞在中には、ドイツ国内に300~400か所あると言われている「子ども農場」の見学にも行きました。子どもの遊び場に馬がいる、という私にとっては理想的な場所でした。子ども農場のことを知ったきっかけは、大学生の時に学科の図書室で手に取った『子どもの声はずむまち~世界の遊び場ガイド』という本でした。唯一、大学時代の学びと子どもや馬が結びついた本であり、娘がプレイパークという遊び場に通うことにもつながりました。イギリスとドイツで、馬を通じた様々な教育的活動の現場を見ることができたのは、いろいろな方が力を貸してくださり、そして受け入れてくれたからで、とても感謝しています。子どもたちの状況や周囲の環境等によって、様々なやり方があると感じることができ、そのことは今、いろいろな施設と連携して活動を行うことに活かされています。



おすすめの本

『ミルクマンという名の馬』 岩波書店
ヒルゲ・ローゼンホーム作/木本 栄訳

ある朝、家の玄関に馬が現れ、ヘルマン少年がかまいますが、ミルクマンを取り巻く騒動は大きな事件に発展。老人ホームで一言も発しなかった元装蹄師の男性が、「(馬に)仕事を与えてやれ。やつらはとにかく、生きがいがなくちゃいかんだ。」と言い、最終的には自ら馬を飼い、装蹄の仕事再開。ミルクマンたちも新しい仕事をめます。ユーモラスなお話の中で「生きがい」について考えさせられます。



馬のおもちゃ

『レースギャロップ』

友人にプレゼントしてもらったゲームですが、これもドイツ製です。5頭の馬が、障害物競争をするゲーム。馬と騎手が木製で、とてもかわいいです。進む数は手持ちのカードの中から自分で決めるのですが、1つのマスには1頭しか入れず、自分のいるマスに他の馬が来ると、後ろに下がらなければいけません。簡単なようで、なかなか頭を使うゲームです。2人ではつまらないので、ぬいぐるみの馬たちと一緒に遊んでいます。



活動報告

馬とのふれあいプログラム in 愛知県森林公園 (9月21日)

3歳から7歳まで、4名の参加でのんびりと馬との時間を過ごしました。初めて参加した男の子は、プログラムの時間内で馬との距離がどんどん縮まり、何回も参加している子どもたちは、長い目で見た成長が感じられました。子どもたちにとって「今」しか感じられないこと、五感を通して直接感じられることを大切にしたいと改めて思いました。



LINE 公式アカウントを作成!

馬の学校のLINE公式アカウントを作成しました。これまでプログラム等のお知らせは、通信、FB、ブログで行ってきました。しかし、このコロナ禍で先の見通しが立たない中で、通信発行のタイミングで実施や日程を決定できないことも出てきました。また、いつ決定できるかわからないため、FBやブログをチェックしていただくタイミングも難しい……。そこでLINE公式アカウントに友だち追加していただくことで、プログラムの案内を受け取ることができるようにしました。ぜひご登録をお願いします。(こちらから→)



秋のプログラム参加者募集!

馬とのふれあいプログラム in 愛知牧場

日程：11月14日(土) 10時~12時

対象：年中児~大人(定員6名)

参加費：1人¥5,000(3歳~小学3年生・ポニー使用)
¥5,500(小学4年生~大人・成馬使用)

*申し込み締切 11月7日(土)

<関西でのプログラムについて>

関西でのプログラムは、引き続きお休みといたします。ご協力いただいている施設の状況や、現地までの交通手段、ボランティアの確保等で様々な課題があります。さらに、この先の見通しが立たないということもあり、とても残念なのですがお休みとすることに決めました。来年春には実施できることを、祈るばかりです。



馬の歯医者さん

ぱかぱこひろばにいるさくらは、この夏デンタルケアを受けました。口を開ける専用の道具を付け、やすりで歯を削り、かみ合わせを調整してもらいました。エサが食べやすくなり、食べこぼしが減り、エサの時には走って食べにくるようになったとのこと。草をすりつぶして食べる馬にとって、かみ合わせは健康に様々な影響を与えるようです。



編集後記

新型コロナの影響がいろいろなところに出ていることと思いますが、それは娘にも!娘は休校期間、そして学校再開後も窮屈な学校生活にストレスがたまり、6~7月は思春期とイヤイヤ期と赤ちゃん返りが一気に押し寄せてきたようで、そのイライラは母にぶつけられ、母はぐったり。そのような状況で夏休みまで待てず、学校を休んで小須田牧場に行ってきました。大好きな馬たちに会い、お友達と一緒に世話をしたり乗ったりし、ペンションHimawariでおいしい食事をいただきながらのんびり過ごしました。すると帰宅後・・・あのイライラがウソのように落ち着いたのです。馬たちやいろいろな人たちと過ごす時間が、娘にとっていかに大切か、改めて強く感じました。こんな時だからこそ、馬と過ごす時間を多くの子どもたちに届けたいと思い、プログラムの一部が再開できることをとても嬉しく思います。まだまだもどかしさもありますが、できることを大切に取り組んでいきたいと思っています。(峯崎友香理)